

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こ みち
教育の小径 No.123

2019 January

1月号

(一財)総合初等教育研究所参与
前 国士舘大学教授

北 俊夫先生



今月のことば

きょしんたんかい
虚心坦懐

心に何のわだかまりもなく、素直な気持ちで物事に臨むことをいいます。「坦懐」とは心が平らなことです。

「見方・考え方」を働かせた授業

- 「見方・考え方」は、子どもたちが学びを深めていくための「学び方」であると同時に、教師の「教え方」でもあります。それは人としての「生き方」につながっています。
- 授業において、教師が「見方・考え方」を働かせるポイントは、子どもたちへ教材に対して着目する視点を指し示すとともに、情報を処理する方法や手続きなどを助言することです。

今月の 成人の日
記念日 (1月2月曜日)

おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日です。国民の祝日です。制定された昭和23年から平成11年までは1月15日でした。

「見方・考え方」とは何か

最近「見方・考え方」というフレーズをたびたび耳にします。校内などの授業研究のテーマに位置づけ、「見方・考え方」を働かせた授業づくりに取り組んでいるところもあります。こうした動きは、今回の学習指導要領で教科等の目標に「見方・考え方」が位置づけられたことによるものです。

各教科等の『解説』には「見方・考え方」について解説されています。

例えば社会科では「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」と説明されています。前半には、社会科ならではの固有の見方・考え方が、後半にはいずれの教科等においても共通する見方・考え方が示されています。このことから、教科等における「見方・考え方」を固有性と共通性の観点から捉えることができます。

教科固有の「見方・考え方」とは、その教科等の学習内容や教材に着目する視点です。共通的な「見方・考え方」は教材などから収集した情報の処理の仕方や手続きなどの方法だと言えます。「見方・考え方」は学習を深めていく

際に必要となる「学びの道具」であり、その意味で「学び方」だと言い換えることができます。

子どもたちが「視点や方法」を駆使して学びを深めていくようになるためには、教師が学習場面で必要とされる「見方・考え方」を明確に押さえ、それらを働かせるよう適切に導く必要があります。例えば複数の事象を提示したとき、教師は「違うところと同じところはどこだろうか」と問いかけます。こうすることによって、子どもたちは比較して見たり考えたりします。また、観点を設定したり条件を揃えたりして考えるよう助言します。

このように見てくると、「見方・考え方」は教師の「教え方」でもあることに気づきます。「見方・考え方」は授業の質を高めるための「教え方」の術(すべ)だとも言えます。

子どもの「学び方」、教師の「教え方」としての「見方・考え方」は、人生を生きていくために求められる「生き方」の術として昇華していきます。

「見方・考え方」の働かせ方

教師は「見方・考え方」をどのように働かせたらよいのでしょうか。例えば次のような手だてが考えられます。

まず、教材や題材、資料や現象など

をどのような視点から捉えるのか。何に着目して学びを深めるのかを指導します。これは教材などへの内容的な視点からの関わり方です。実際の授業では、例えば「○○に着目して見てみましょう」「どこに目をつければよいでしょうか」「○○の立場になって考えましょう」などと助言します。これによって、学習の対象である教材や題材を分析的、多角的に読み取り、深まりのある学びが期待できます。

次に、事象や事柄を処理する方法など「学習の仕方(学び方)」を助言します。例えば、比較する、分類・整理する、結びつける(関連づける)、条件をつける、具体化する、まとめるなど、収集した情報や事実を操作する手法を指導します。

学習の仕方を助言することによって、子どもたちは学習活動を主体的に展開し、学びを深めていきます。それまで気づかなかったことにも気づくようになります。学び方としての「見方・考え方」は、学びを深めていくための重要な「道具」です。

このような「見方・考え方」を発揮した授業が展開できるようになるためには、教材に対する分析と研究が不可欠です。また、教師が指導のねらいをしっかりとち、子どもの立場に立って授業を構想する力が求められます。

いつも独りぼっちの子ども

休み時間に教室に居残ったり、校庭でも一人でいたりする子どもがいます。友だちと一緒に遊ぼうとしない子どもにはどのように指導したらよいのでしょうか。

教師にとって、いつも独りぼっちでいる子どもは気になるものです。まずは、なぜ独りぼっちなのか、子どもを観察したり子どもから聞き取ったりして背景を理解します。その子どもの性格がそうさせているのか。仲間に入りたくても入っていないのか。友だちから疎外されているのかなど、さまざまな理由が考えられます。

人間関係など外的な要因がある場合には、教師はそれを取り除く努力をします。根っこが深い場合もありますから、慎重に対処します。

休み時間を一人で過ごすことが悪いことではありませんが、友だちと仲よく遊ぶことも大切です。人間関係が広がり、友だちから学ぶ機会になるからです。教師が中心になって、集団遊びを企画することも考えられます。教師がその子どもを誘って、一緒に遊ぶ方法もあります。遊びの場では、その子の出番をつくったり仲のよい友だちに声をかけるよう依頼したりします。

大切にしたいことは、少しずつ人間関係を広げ、友だちと一緒に遊ぶことの楽しさを味わわせることです。子どもの気持ちを察しながら、気長に取り組むことも必要です。

最近の子どもたちは公園などで集団で遊ぶことが少なくなったと言われます。学校はさまざまな友だちと集団で遊ぶことができる絶好の場です。

教育の動向

給食費無償化に関する調査

文部科学省は、1740の市区町村を対象に平成29年度における公立小中学校の給食費の無償化について調査しました。

給食費を小中学校共に無償にしていた自治体は76で、全体の4.4%。このうち71の自治体が町村でした。人口が1万人未満の自治体が56を占めていたことから、無償化を実施していたのは人口の少ない小規模の自治体に多いことがわかりました。

無償化した目的には、食育の推進、保護者の経済的負担の軽減、子育て支援、少子化対策などがあげられていま

す。無償化の成果は、子どもに自治体（地域）への感謝の気持ちが涵養されたことや栄養バランスの良い食事の摂取や残食を減らす意識が向上したことなどです。保護者は経済的な負担が軽減し、安心して子育てできる環境が享受できたこと、親子で食育について話し合う機会が増加したことをあげています。一方、学校や教師のメリットは給食費の徴収や未納・怠納者への対応負担が解消されたことです。

すべての小中学校で完全給食を実施しているのは1608自治体で、全体の92.4%でした。小中学校で実施していない自治体は20（1.2%）でした。完全給食とは、パンまたは米飯（これらに準ずる食品を含む）とミルク、おかず等のある給食をいいます。



「思考力・判断力・表現力」の

指導と評価

その3

課題② 授業での指導の実態

各教室では、思考力、判断力、表現力を育てるために、どのような指導が行われているのでしょうか。ある教科の授業を参観したときのことです。学習指導案の「本時の目標」に「～について考えることができる」と記述されていましたので、このことに注目して授業を観察しました。ところが、45分間のどこにも子どもたちに考えさせる場面がありませんでした。これでは目標を実現することも、考える力を育てることもできません。

ほかの授業でのことです。教師は授業中に「どうして○○なのかを考えましょう」と問いかけました。よい発問だと思いました。ところが、どのように考えるのか。考え方について指導している場面はありませんでした。例え

ば「AとBを比べなさい。どこが違うのか、どこが同じかを考えましょう」と問いかければ、子どもたちは比較して考える活動を展開します。

「思考力、判断力、表現力」とひとつのフレーズで言われていますが、思考力や判断力と表現力は明らかに違ったレベルの能力です。思考力と判断力にも違いがあります。3つの能力が明確に区別されていないようです。

思考力、判断力、表現力はたびたび耳にするフレーズですが、授業において具体的に指導されていないのが実態ではないかと思います。その原因の一つに、思考力、判断力、表現力の育て方が確立していないからではないかと考えます。思考力や判断力や表現力を育てることの大切さは自覚されているのですが、それぞれの能力の育て方の研究・開発が遅れているようです。

INFORMATION

ぶんけいの
移行措置対応

教科別しあげ教材



1年間の学習を
1冊で
まとめて復習!

各種学力テスト対策に使える!

○年へGO! は全学年に冊子型「学力定着確認GOテスト!」つき

編集後記

AIやIoT化が進んだ社会では、課題解決能力や柔軟な発想力が求められるようです。今からでも日々の生活の中で見方・考え方を働かせ、これからの社会で必要な活用する力を身につけたいものです。(K記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2019年1月1日